HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「持続可能な低炭素社会」づくりプロジェクト ： 実施記録
Issue Date	2017-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65157
Type	report
File Information	36_chapter-1.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

1. プロジェクトの概要

（前）総長あいさつ

北海道大学　総長　佐伯　浩

「低炭素社会」という耳慣れない言葉が、新聞、テレビ等でよく聞かれるようになりました。この日本語、実は2005年3月生まれの5歳児だそうです。イギリスで使われ始めた〝Low Carbon Economy〟という言葉を、日本で「低炭素社会」〝Low Carbon Society〟という言葉に改め、今ではG8サミットの首脳宣言でも使われるようになりました。5歳児にしては大出世と言うべきでしょう。

北海道大学においては、この低炭素社会づくりのための教育研究プロジェクトをG8北海道洞爺湖サミットが行われた2008年から、いち早く開始しました。本学は、洞爺湖サミットに先立ち、世界史上初のG8大学サミットを札幌で開催し、「札幌サステイナビリティ宣言」を採択しました。

○政策と社会とアカデミアがサステイナビリティ実現のために共進していく原動力として、大学の新しい使命を果たしていく。

○共同研究と教育プログラムを通じて開発途上国の大学・研究機関と連携を強化し、必要に応じた支援をしていく。

本学は、このような宣言の具体化として低炭素社会教育研究プロジェクトを開始するとともに、サステナビリティ・ウィークを恒例化し、毎年、国内外の多数の研究者、実務家、市民等の参加を得て、持続可能な社会、低炭素社会の実現に向けた教育研究活動を展開しています。

本学の基本理念は、「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」です。現実の社会経済を世界中で根本から低炭素型に変革していくためには、この4つの理念を具現化した多様な能力を持つ人材が必要であることは論を待ちません。この低炭素社会教育研究プロジェクトは、本学の基本理念を具体化するための重要なプロジェクトの一つであると考えています。

このプロジェクトの実施に当たって、北海道大学の中だけで閉じていたのでは大きな成果を期すことはできないでしょう。私たちが国内外の多くの皆様と交流し、相互に刺激し合う中で低炭素社会への道が開けていくはずです。多くの皆様がこのプロジェクトにご参加いただき、交流できることを心から希望しています。

2010 年3月

「持続可能な低炭素社会」づくりプロジェクトとは

プロジェクトの目的

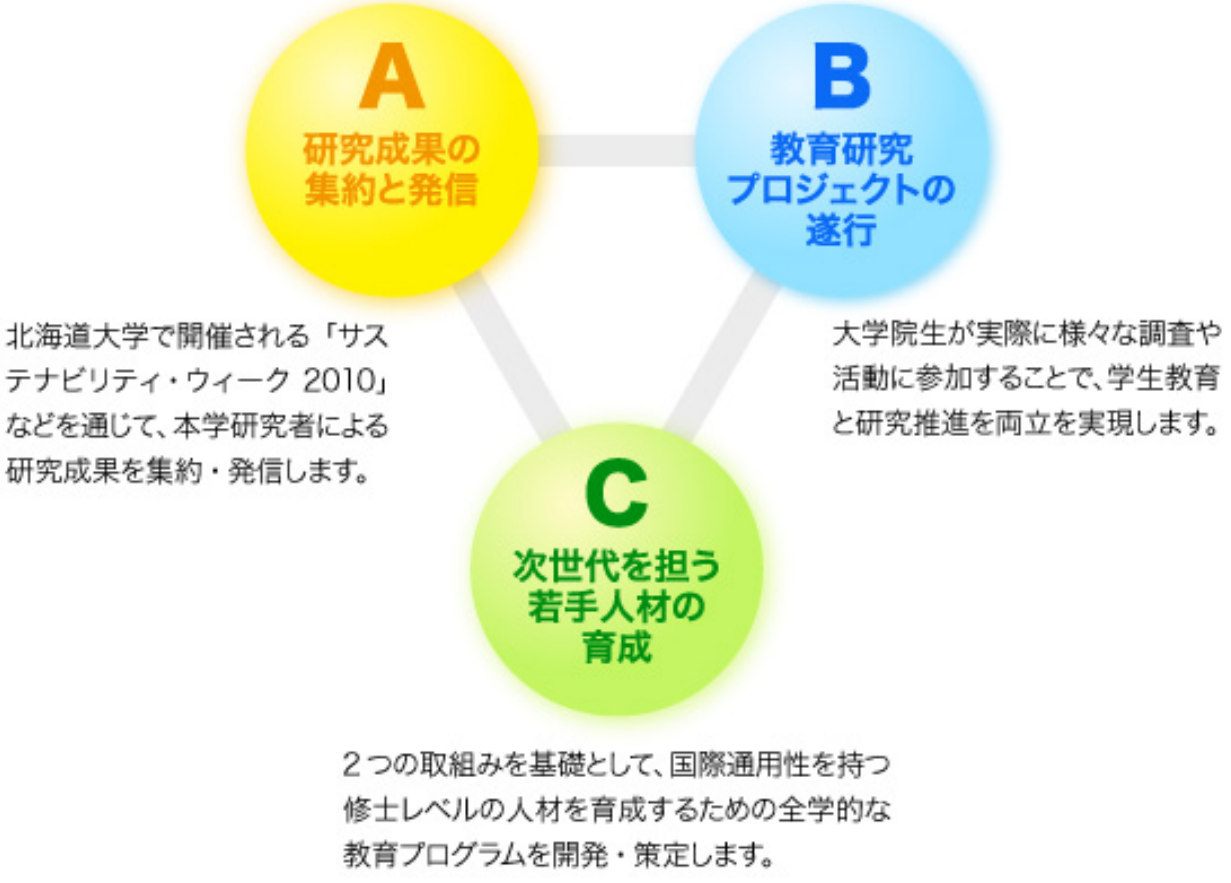
「持続可能な低炭素社会づくり」は世界的に喫緊の課題であり、若手研究者・実務家育成のため、国際的に汎用性のある教育プログラムの構築がアジアを中心に強く求められています。そこで低炭素社会づくりの実現に向け、北海道大学のこれまでの研究成果を分野横断的に統合し、成果を広く社会に発信すると共に国際枠組みづくりを担える人材を育成します。

事業概要

低炭素社会づくりの実現に向け、京都メカニズムの実施改善調査や再生可能なエネルギーの普及に向けた研究提言、エコキャンパス活動などを通じて、北海道大学の研究成果を広く発信するとともに、これらの実務・研究を担う人材育成のための教育プログラムを構築します。

具体的な取組について

このプロジェクトは、「持続可能な低炭素社会づくり」に向けて、３つの柱を立てて取り組んでいきます。



プロジェクトのメンバー紹介

記載の情報は平成26年3月31日時点のものです。

吉田文和

【所属】北海道大学大学院経済学研究科・教授 経済学博士
【研究テーマ】環境経済学、循環型社会と持続可能な低炭素社会の社会科学的研究
【メッセージ】いま、日本は経済的にも環境的にも大きな転換点に立っている。今後、どのように対処すればよいのか、市民が総合的に考え検討する、その機会をつくりたい。

佐野郁夫

【所属】北海道大学公共政策大学院
【研究テーマ】環境政策、特に経済的手法など誘導的手法とその効果の分析、自然とのふれあいを通じた環境教育

【メッセージ】前職も北海道でした。冷涼な気候と広大な土地という北海道の特性を生かした、持続可能な社会づくりと、それを担う人づくりに貢献できる道を模索していきたいと思っています。

荒井眞一

【研究テーマ】北海道の地域特性を生かした低炭素社会の実現と気候変動対策と循環型社会形成、生物多様性の保全との統合によるサステイナブルな社会の実現のための政策

― 持続可能性に向けたバイオ燃料や残留性有機汚染物質を例としたリスクの評価と管理
― 専門性と分野横断的な視点をもった、環境人材の育成

【メッセージ】北海道大学のフロンティア精神と実学の重視の伝統に則り、持続可能な社会の実現に向けて、俯瞰的な視点をもって問題解決型の研究、教育を、実践していきたいと思います。

藤井賢彦

【所属】大学院地球環境科学研究院
【研究テーマ】・海洋生物資源（特にサンゴ礁・藻場）の保全と持続的利用
・北海道における有機性資源の利活用
・サステナブル・キャンパス活動

【メッセージ】本プロジェクトで扱う研究対象の多くは学際性が極めて強く、学内外の様々な専門家・実務家とコミュニケーションを取れる積極性とバランス感覚が求められます。これらの素養を磨くべく、書を携えて町へ出よう、野へ出よう！

東 愛子

【所属】北海道大学公共政策大学院 博士研究員
【研究テーマ】経済的手法を用いた環境政策、環境政策とエネルギー政策の相互影響、環境政策とエネルギー政策が電力会社の行動に与える影響

【メッセージ】ローカーボンかつクリーンなエネルギーの普及した社会をつくるためには、どのような政策が必要なのか、また、その負担はどれほどなのかを、経済学の視点で考えています。

目黒祐美子

【所属】北海道大学公共政策大学院
「持続可能な低炭素社会」づくりプロジェクト事務担当
【メッセージ】イギリスのキャンプヒルに暮らした経験があり、現在は日本、北海道のエコビレッジ活動に興味があります。

人間以外のサイクルにも負担を掛けず、どう私達もある程度快適に生きていけるのか。

今までは個人の生活レベルの取り組みばかりに注目していましたが、

東日本大震災後とくに国や自治体の政策、取り組みも重要だと痛感しました。

私は研究者でも専門家でもありませんので、「持続可能な低炭素社会づくり」

プロジェクトの事務作業やメッセージを発信することで、わずかばかりでも実現に向けてのお手伝いをできればと考えております。